

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	佐藤 嘉代子 【人間発達科学専攻 平成23年度生】 (平成29年3月31日 単位修得退学)	<p>本論文は、ある保育園の5歳児クラスに「子どもと哲学する時間」を設定し、そこで、どのような対話がなされ、それによって子どもや保育士、そして園にどのような変化がもたらされるのかについて、アクションリサーチによって探ることを目的とするものである。分析にあたり、ボルノウの「教育的雰囲気」を基に、保育する者とそれを受け入れる者との間に通いあう雰囲気を「保育的雰囲気」として捉え、保育実践を読み解く視座としている点がユニークな点である。保育時間の中で意図的に設定された「子どもと哲学する時間」の記録を、映像及び音声にて収集し、さらに保育士への半構造化インタビューを行い、それらの記録を主な対象として分析をおこなったものである。論文の中では、設定された対話の場を通して子どもや保育士が変化、成長する過程が論じられ、何より対話の場が保育士と子どもの日常的な信頼に満ちた保育的雰囲気に支えられていることが明らかにされた。</p> <p>2018年6月13日の代議員会において、審査会の設置が認められ、第一回審査会は、7月4日に開催された。審査会では、論文において研究方法が明確に記述されていないことが指摘され、アクションリサーチとしての研究であることの意義を明確にした上で、分析が進められることが求められた。構成の再検討の他、図表、トランスクリプトの提示などにおける問題点が指摘され、修正には時間が必要であることを考慮し、二回目の審査会を10月24日とした。第二回の審査会では、研究方法の記述は十分なものとなったことが認められたが、さらにトランスクリプトの分析に修正が求められた。第三回の審査会は12月5日に開催され、修正点を含めての確認がなされ、第四回の審査会が1月23日に開催され最終的な公開發表前の確認がなされた。</p> <p>公開發表会は、2月14日に開催され、多くの参加者を得て、活発な質疑がなされ、それらに対して適切な応答がなされたことから、博士(社会科学)、Ph. D. in Child Studies にふさわしい論文であると評価された。</p>
論文題目	保育的雰囲気が支える「子どもと哲学する時間」 —保育園5歳児クラスの対話から—	
審査委員	(主査) 教授 小玉 亮子	
	教授 浜口 順子	
	教授 柴坂 寿子	
	准教授 刑部 育子	
	准教授 富士原 紀絵	
インターネット公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 否 )</li> <li>○ 「否」の場合の理由                         <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</li> <li>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</li> <li>Ⓞ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</li> <li>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</li> <li>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</li> </ul> </li> <li>※ 本学学位規則第22条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</li> </ul>	